

浜松肺炎地域連携クリニカルパスについて

2021年2月10日

総合病院 聖隷浜松病院

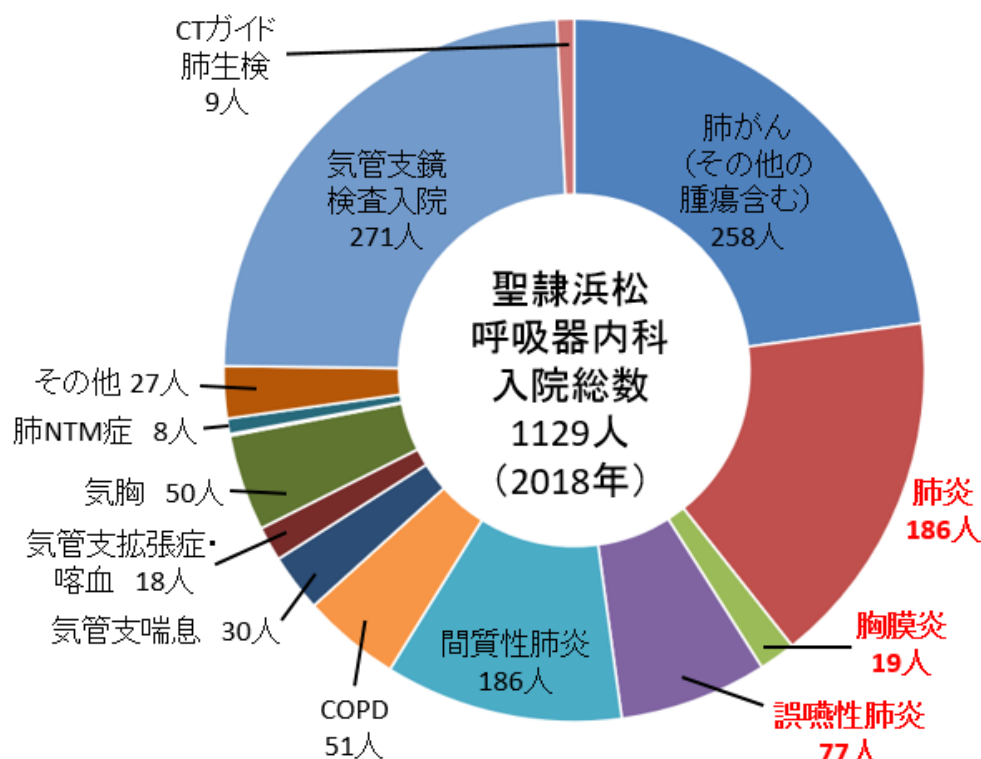
呼吸器内科 部長 中村 秀範

肺炎は老人の友である

“pneumonia is the friend of the aged.”

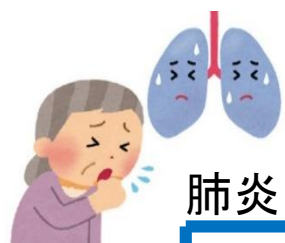


ウィリアム・オスラー

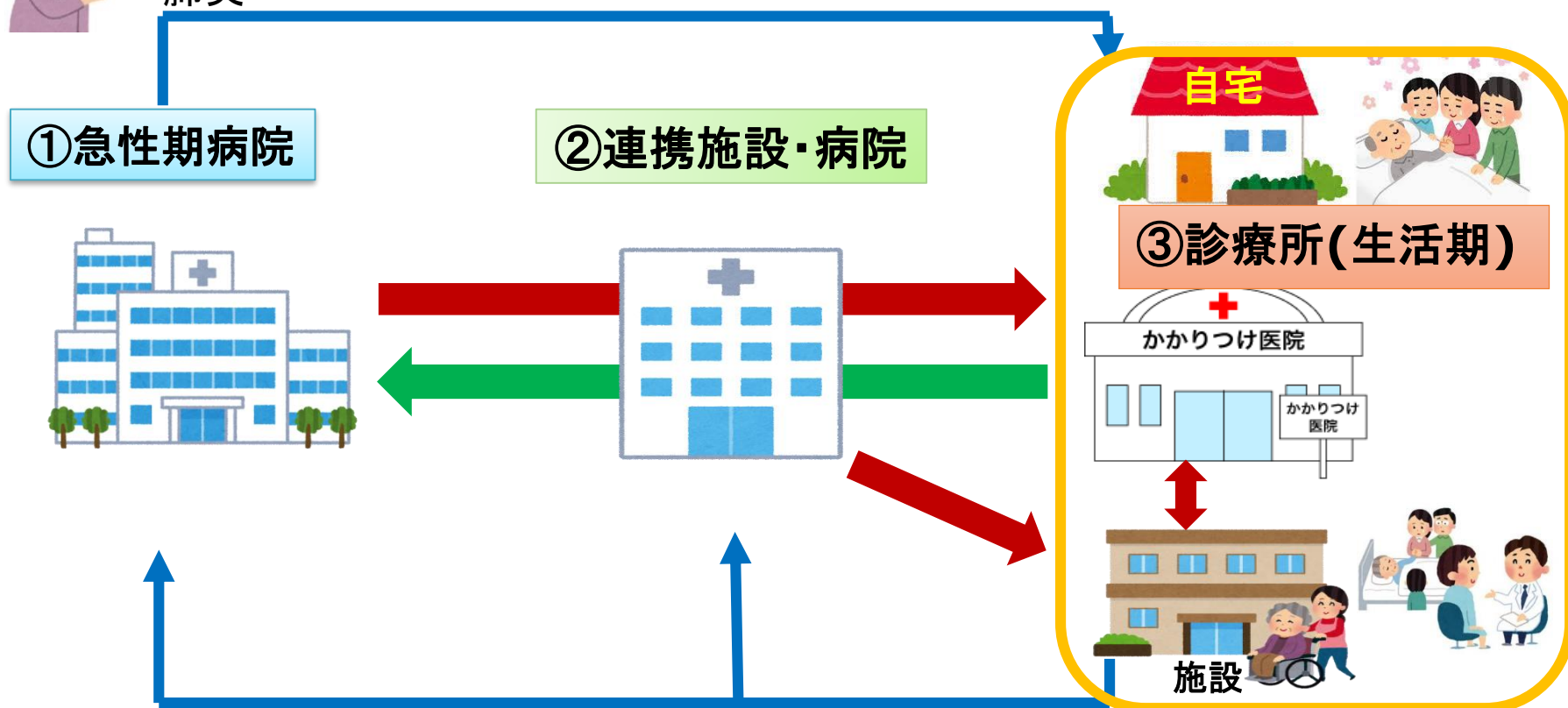


浜松肺炎地域連携パス(旧名称：高齢者肺炎地域連携パス)

作成の背景



誤嚥性肺炎がほとんど「肺炎は老人の友」
再燃を繰り返す（食事を開始して再燃）併発症・合併症も多い
→転院や自宅退院まで時間がかかる
→急性期病院のベッド占拠

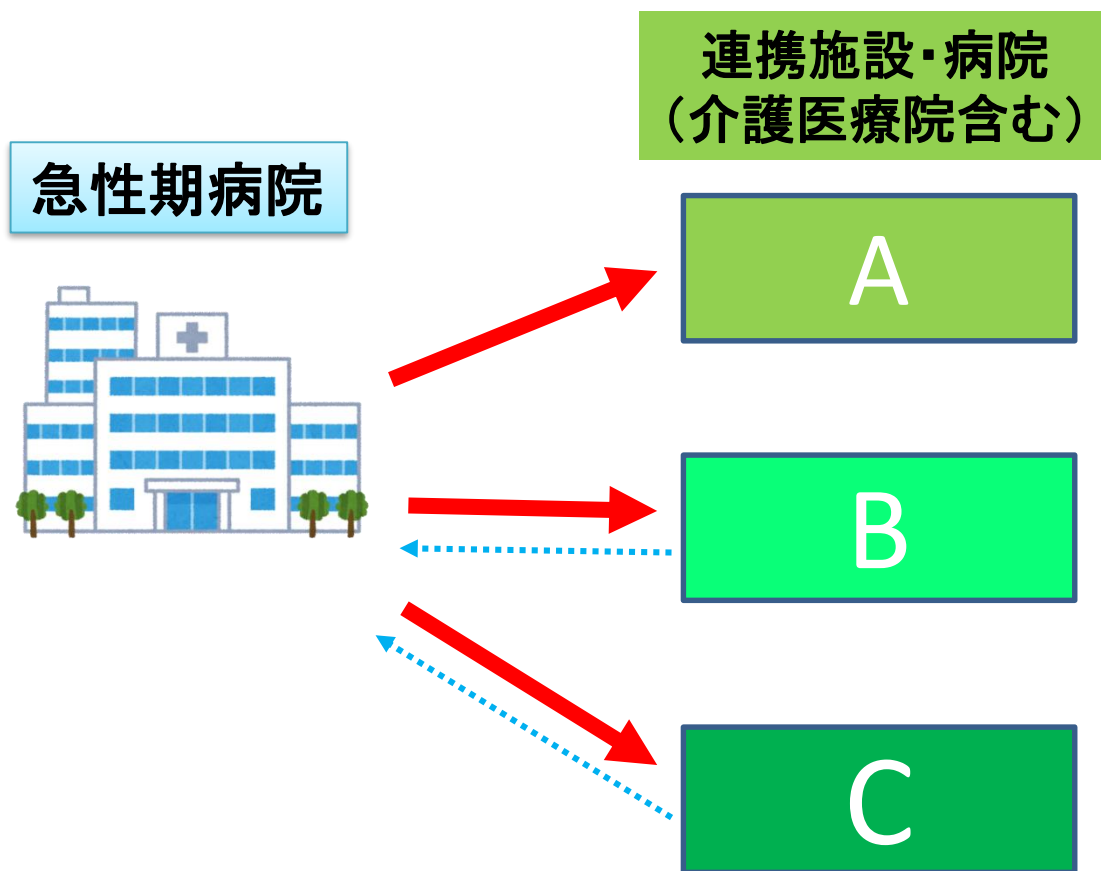


- ①地域包括ケア：地域全体でみていく
- ②医療機関の機能分担：急性期病院での治療後は速やかに連携施設・病院へ
→急性期病院が満床で救急患者を受けいられない状況をつくらない

)

2021.2.10 浜松肺炎地域連携パス運用検討会

柔軟な連携体制：浜松肺炎地域連携パス 退院転院基準



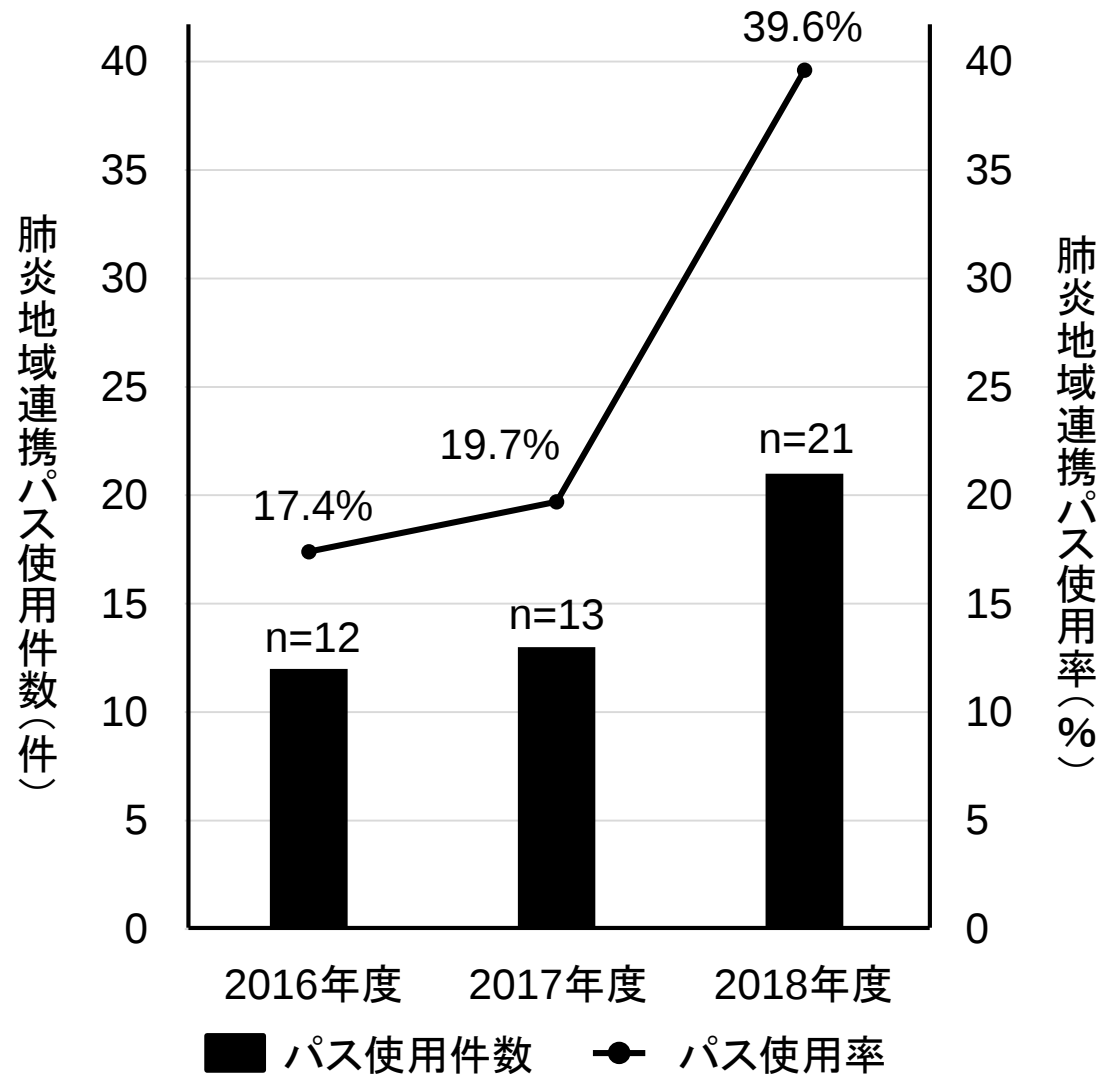
連携施設・病院の受け入れ
体制に応じた退院転院基準

連携施設・病院毎に
「受け入れられる体制」
は異なる

急性期病院との取り決め
「転院受け入れ可能な条件」
を決める

肺炎パスの使用状況

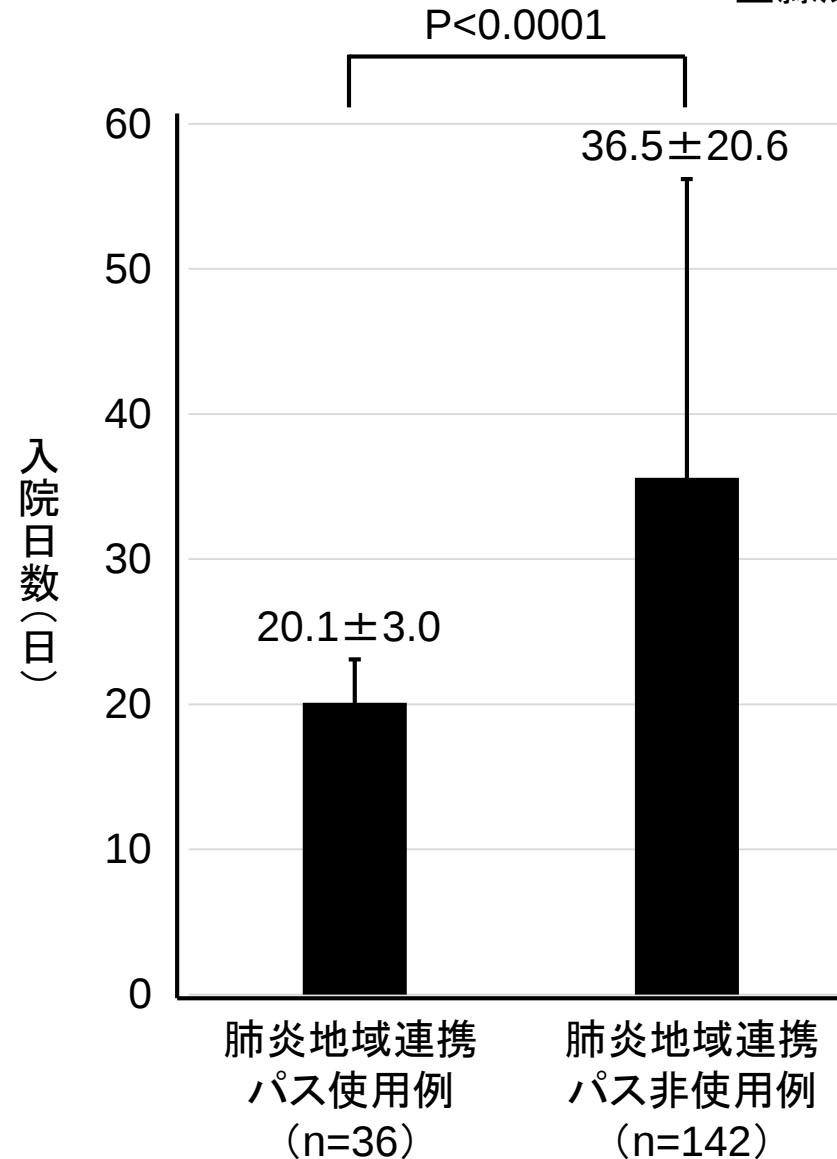
聖隷浜松病院 呼吸器内科



(日本クリニカルパス学会雑誌 2021 in press)

肺炎地域連携パス使用有無による入院日数の比較

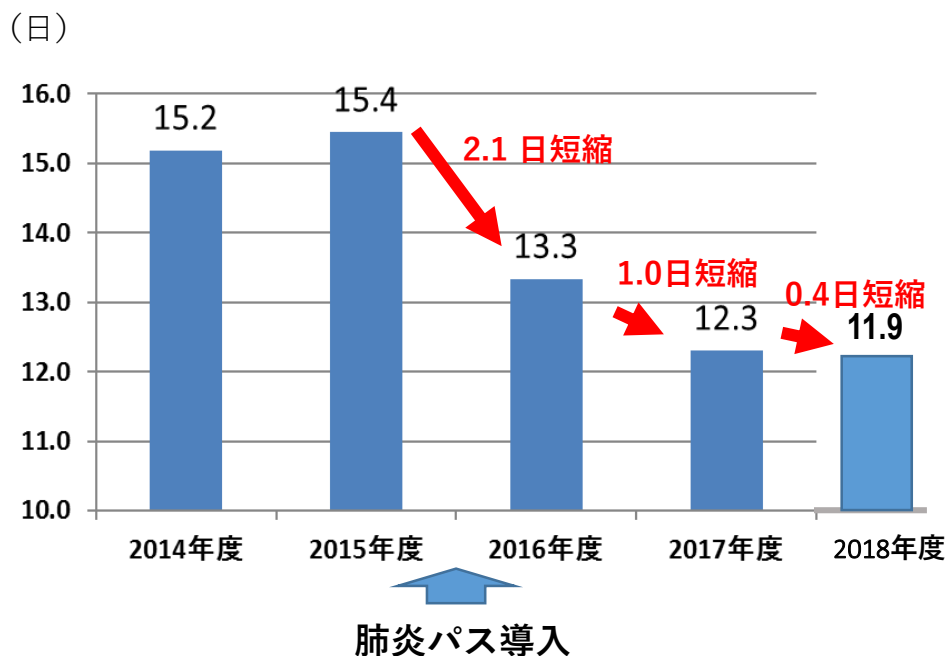
聖隷浜松病院 呼吸器内科



(日本クリニカルパス学会雑誌 2021 in press)

肺炎パス導入後の呼吸器内科の平均在院日数の推移

平均在院日数



新入院患者数



浜松肺炎地域連携パスの目指すところ

- ✓ 医療機能や患者の状態に応じた医療の実施：
 - ・高齢者肺炎診療における診療機能の分担
- ✓ 地域包括ケア：高齢者肺炎の患者さんを地域全体で支える
 - ・ACP(アドバンス・ケア・プランニング)：
 - 高齢者肺炎の患者さんの価値観や目標や
 - 治療選好に一致した医療が受けられるようにサポート
- ✓ パスの活用を通じた医療機関の相互交流により、“顔の見える”信頼しあえる”関係を構築する。

浜松市全体で共有する肺炎地域連携パス

